

○議長（茅沼隆文）

それでは、再開します。

午前10時10分

○議長（茅沼隆文）

1番、佐々木昇議員、どうぞ。

○1番（佐々木昇）

皆様、こんにちは。1番議員、佐々木昇でございます。

本日は、通告に従い一つの項目について質問させていただきます。自転車のまちづくりの推進策を問う。

開成町では、第五次総合計画の施策である自転車のまちづくりの推進に向け、基本方針として、「環境に優しい乗り物である自転車の利用を促進します。自転車を快適に利用できる環境をつくります」として取り組んでいます。成果として利用者が増えているのか疑問であります。また、利用に当たり重要な走行空間の確保、整備に関しても、課題が見られると感じております。

しかし、小学生による交通安全こども自転車神奈川県大会での3年連続優勝、そして全国大会出場というすばらしい結果を残せた事業もあります。開成町の誇りとも言える児童たちのさらなる活躍のために、町として支援体制の強化を図ってはと考えます。今年度から、第五次総合計画前期基本計画の第2期実施計画として事業が進められておりますが、これまでの取り組みをどのように捉え今後の事業を実施していくのか、考えをお伺いします。

1、これまでの取り組み結果の評価は、2、第五次総合計画の目標達成度を図る指標に示された駐輪場確保の現状は、3、自転車の走行空間の確保、整備策は、4、自転車練習場等の確保を、5、酒匂川サイクリングコースの活用は、についてお伺いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、佐々木議員の御質問にお答えします。

一つ目のこれまでの取り組み結果の評価について、お答えをいたします。

開成町では、町域が平坦であるという特性を活かし、地球環境への負荷を軽減するため、日常的な交通手段として環境に優しい自転車の利用促進を図っております。平成25年度からの第五次開成町総合計画第1期実施計画におけるソフト的な取り組み実績として、子どもを対象としたキッズサイクル教室や自転車愛好者とのツーリング教室、町制施行60周年記念事業「サイクルスポーツフェスタ」等の開催による自転車利用のPRを図るための啓発事業、町商工振興会との協働によるレンタサイクル事業、「かいせい自転車の駅」設置等の環境整備事業などが挙げられます。これらの事業への取り組みが、町民の自転車に対する関心度や自転車利用者数の増加につながっ

ていると認識をしております。

自転車利用者数の増加について心配をいただいておりますが、町の人口や世帯が増加し続けていることによる総合的な自転車利用者の増加に加え、複数の自転車専門店が新たに町内に操業を開始したことからも、自転車ニーズは高まっていると判断をしております。

町制施行60周年記念事業として開催した「サイクルスポーツフェスタ」には、町内外から約1,000人の参加をいただき、自転車イベントへの関心の高さを再認識いたしました。また、このイベントで実施した足柄上地区1市5町をめぐるあしがらロングライドイベントでは、地域の自然や景観、おいしい食べ物等を楽しんでいただく等、地域の観光資源をPRする機会としても有意義な事業となり、今年度、5町で取り組んでいるあしがらローカルブランディング事業への波及効果も成果として挙げられると考えております。

これまでの自転車のまちづくりの推進における具体的な取り組みは、自転車利用の促進及び自転車利用環境の整備を主な計画内容として推進してきましたが、さらなる自転車利用者の増加に向けて取り組むとともに、観光面においても自転車利用者の誘致を積極的に進め、他市・町とも連携を測りながら、開成町を初め県西地域への交流人口の拡大を図っていきます。

二つ目の第五次総合計画の目標達成度を測る指標に示された駐輪場確保の現状は、についてお答えをいたします。自転車、バイクの駐輪場については、町条例では「自転車等駐車場」と表記しておりますが、答弁においては「駐輪場」に統一して回答させていただきます。

駐輪場については、町が設置している開成駅前第1駐輪場において、自転車571台、バイク52台が駐車できるスペースが確保されており、それ以外にも開成駅西口に民間事業者が設置した駐輪場が2カ所あり、自転車432台、バイク48台が設置できるスペースが確保されております。以上から、開成駅周辺の駐輪場の合計収容台数は、自転車1,003台、バイク100台分が確保されております。

一方、第五次開成町総合計画における平成30年度の駐輪場の収容目標台数は、1,150台となっております。目標値に対しては、現時点では147台分が未達成となっておりますが、現在の駐輪場の稼働状況から判断しても、駐輪場の需要が収容台数を上回っている状況ではないと捉えております。したがって、現段階では駐輪場の緊急的な整備の必要性はないと判断をしておりますが、今後の利用状況を見ながら、鉄道事業者等の民間事業者による駐輪場の整備を促進するなど、駐輪台数の確保については対応していきたいと考えております。

3番目の自転車の走行空間の確保、整備策について、お答えをいたします。

ハード面の整備につきましては、開成町南部地区土地区画整理事業により開成中央通り及び開成みなみ通りが整備をされ、自転車走行空間は道路両側の延べ延長で約2,840メートルが新たに形成されました。また、環境への負荷の低減や町民の健康増進を目的とした自転車利用促進の取り組みとして、自転車利用者への利便性向上のた

め空気入れポンプや修理工具等の無料貸し出しを行う「かいせい自転車の駅」設置事業として、平成25年度、水辺スポーツ公園、平成26年度、瀬戸屋敷への設置を町単独で進めてきました。

並行して、平成27年度から広域連携により自転車の利用促進に取り組むことから、一層の効果を見出すことを目的とした県との連携事業を開始いたしました。これは、広域連携事業として神奈川県県西地域サイクリングエリア等整備推進委員会に参画し、県西地域に点在する観光スポットにおける観光客の回遊性を高めるため、コミュニティサイクルの導入や自転車利用者のための環境整備等のネットワーク化、コース整備の推進に取り組んでいるものであります。

この組織は、神奈川県を中心に県西地域2市8町、観光協会、商工会、自転車商業協同組合等により構成され、県西地域活性化プロジェクトの一環としても位置付けられております。平成27年度における具体的な取り組みとして、県西地域のサイクリストの利便性向上を目的に、駐輪用のバイクラック設置や空気入れ等の機器貸し出し等のサービスを提供する「自転車の駅」として、開成水辺スポーツ公園を初めとする開成町6施設を含む42施設を整備いたしました。また、地域内で自転車を共有するコミュニティサイクルの実証実験も開始し、開成駅への電動アシスト自転車及びスポーツ車、計11台の設置を初め、小田原駅、新松田駅、山北駅の4駅前に計71台を設置いたしました。

今後は、自転車を利用した県西地域の回遊性向上による地域の魅力発信の活性化のため、また広域における走行空間の拡大等を図るため、広域連携によるスケールメリットを活かした様々な活動の展開を図っていきます。

四つ目の自転車練習場等の確保について、お答えをいたします。

御質問の自転車練習場とは、交通安全子供自転車乗り方大会の練習場のことと解釈してお答えをいたします。また、大会の名称も、全国大会、神奈川県大会、足柄上地区大会では、それぞれの名称が異なりますが、交通安全子供自転車乗り方大会で総称いたします。

交通安全子供自転車乗り方大会では、自転車による交通事故を減少させるために、自転車に乗り始める小学生の年代から交通安全意識、マナーを徹底させることを目的として開催されております。現在、全国大会及び神奈川県大会の実技の練習については、雨天時にも使用できるようコースが常設されている開成小学校のピロティエを中心に、学校校庭にも練習コースを設置して取り組んでおり、学科については開成町民センターで実施をしております。開成小学校と開成南小学校両校の生徒が参加する足柄上地区大会の練習でも、同様に開成小学校と町民センターを利用しております。開成南小学校の生徒は開成小学校まで移動して練習することになりますが、先ほどにも述べましたとおり、雨天時でも練習可能なこと、また自転車保管庫があることなどの点を考慮して開成小学校としております。

また、練習指導を交通指導隊及び延沢、吉田島の駐在の方々にも御協力をお願いしていますが、指導者の確保も考慮して1カ所での練習としております。人数が多い場

合には学科と実技を交互に実施するなど工夫しており、各大会に向けた練習機会の確保について、現状では大きな問題は発生していないと認識をしております。したがって、現時点では新たな自転車練習場の確保の必要はないと考えております。

なお、子どもたちが普段から自由に自転車の練習ができる場所の確保については、今後、特定の公園を開放することを検討していきたいと考えております。

最後に、酒匂川サイクリングコースの活用について、お答えをいたします。

開成町都市計画マスタープランでは、酒匂川サイクリングコースを観光・レクリエーション資源や町民、周辺地域住民の健康増進等に活用し、また、地域性の高い施設として、周辺市と連携し管理の移管を進めるとともに積極的な利用を図ることとしております。

酒匂川サイクリングコースは神奈川県が管理しておりますが、県から小田原市、南足柄市及び開成町の2市1町への移管に向けた打診があり、現在、県及び2市と協議・調整を進めております。移管は2市1町一括を基本に考えており、また、移管を機にリニューアルしたサイクリングコースとなるよう舗装やサイン看板の補修、更新などについて県へ要望していき、移管後は、サイクリングコース利用者のニーズを踏まえ、2市と連携してサイクリングコースの活用及び適正な維持管理に努めていきたいと考えております。

以上であります。よろしくお願いたします。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ただいま御答弁いただきまして、順次、再質問させていただきます。

まず、再質問につきましては、細項目の1から3番まで、これまでの取り組み結果の評価は、第五次総合計画の目標達成度を測る指標に示された駐輪場確保の現状は、自転車の走行空間の確保、整備策は、につきましては、一緒にまとめて質問させていただきたいと思っております。

先ほどの答弁で、自転車利用者は増えているというような御答弁がございました。人口や世帯の増加や自転車専門店が操業を開始したとのことですが、利用者が増えているということで確認させていただきたいと思っております。駐輪場の関係ですが、駅前ということになりますと思っておりますけれども、この利用台数は増えているのか、わかればお答えいただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

お答えさせていただきます。

駐輪場の利用台数ということで、今、お答えさせていただきますが、先ほど整備の台数につきましては、全体で自転車1,003台、バイク100台ということで確保されておりますけれども、こちら、台数として利用の中でも95%から97%程度の中

で年間、移行しておりますので、当初の利用の台数としましても伸びが出てきていると思います。

それから、小田急さんの整備は25年以降に新しい第2の駐輪場が整備されておりました、こちらが整備を行われておりますので、この部分を含めまして台数的にも76台ほど、こちらを増やしておりますので、その分も含めまして利用台数が伸びているというふうに検証されます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

利用台数は増えているということで承知いたしました。

また、今後、駐輪場が必要になったときには、民間事業者さんに整備を促進するという御答弁でしたけれども、これは民間事業者さんが行ってくれるという理解でよろしいのか、確認させていただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

ただいまの佐々木議員の御質問にお答えさせていただきます。

駐輪場の整備につきまして、今現在、町で設置した第1駐輪場、それから小田急さんで設置されております2カ所の駐輪場がございます。こちらにつきましても、町の考え方としましても、民間の事業者さんの御協力をいただきながら整備を進めていくという考え方でおりますので、基本的には民間の整備という形で考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ありがとうございました。

続きまして、先ほどの答弁で、これまでは自転車利用促進を主な目的として町域における事業を推進してきたということでした。また、自転車利用者さんの増加等に伴い、観光面での自転車利用者誘致による交流人口の拡大を図っていくということでしたけれども、町域での自転車の利用促進的な事業は、今後、行わないということではないということですよ。必要があれば、そういった事業を行うということによろしいでしょうか。この辺も確認させてください。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきます。

町域での利用促進を行わないということはありません。広域連携の中で、2市8

町の枠組みの中で進めていくということの中で、特に開成町として整備等の要望があれば、そこは必要に応じてしていくということは当然してまいりますし、今後も引き続き、これまでの利用促進を進めていくということで認識をいただければと思います。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

分かりました。

利用者促進ということだと、重要なのはハード的な話になってくると思います。現状では財政面的には様々な課題がありまして、簡単にいかないということは私も承知はしております。そんな中で、また何点か質問させていただきます。

これも確認的なことになってしまいますけれども、以前、開成町で取り組んでいた「人に優しい」サイクルシティ・かいせい」という計画があったと思います。これは今でも国土交通省のホームページから検索ができるのですがけれども、最終年次として平成25年となっております。整備予定ということで計画が出ておりますけれども、この辺の計画、現在、どのようになっているのか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（山口一夫）

それでは、お答えいたします。

今、議員御質問の事業につきましては、平成12年度に自転車利用環境整備モデル事業ということで、国土交通省の募集に応じた形で事業を事業化しております。事業の実績といたしましては、平成12年度から16年度までの5年間、ハード整備を行ってございます。その内容ですけれども、現状の歩道の段差をなくしたり、あと透水性の走りやすい路面にしたりという整備と、あと、例えば、松ノ木河原の区画整理事業の中で新たな道路をつくった場合に歩道を整備するといった、主にやってございまして、その中で延長的に実績として約1,950メートルほどを整備してございます。

16年度で一旦、これは終わってございますけれども、その中の課題といたしまして、今、申しあげた歩道の整備につきましては、現況の歩道が1.5から2メートル程度というのが主でございまして、それについて自転車を通行させようという計画でございましたけれども、自転車を実際に通行可にするには、公安委員会、警察との調整の中で、公安委員会で自転車通行可という意思決定がなければ難しいという現状がございまして、その辺が。ハード整備をした後、警察と調整した中で、これは警察の判断で、規制ですので、その中で、実際、自転車通行可の意思決定がなされなかったというのがございました関係で、2メートル程度の整備での自転車道としての整備はやめた。

あと、ハード整備の法律でございます道路構造令につきましても、自転車・歩行者道、いわゆる自転車が通れる歩道の幅員は3メートル以上ということもございましたので、一旦、現状の歩道の改善等、歩道整備による自転車空間の整備はやめていると。

ただ、町長の答弁でもさせていただきましたけれども、今回の南部の区画整理の中での幅の広い歩道等の整備にあたっては、従前の事業を踏襲した中で、自転車の走行空間と歩行者の通行空間を明示してハード整備に努めるということで進めているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ありがとうございます。

実は、この計画で整備されたところもあるのですが、これ、ちょっと住民の方に言われたのですが、整備済みのところを自転車が走行可能なのか、標識がないということで、どうなのかなんていうことも聞かれたのですが、今の御答弁で確認させていただきました。

この計画、実際、なかなか難しいというのであれば、国土交通省のホームページ、これ住民の方、見られている方もいらっしゃると思いますので、こちらから外していただいたほうがいいのかなと思うのですが、その辺の町の考えをお伺いします。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（山口一夫）

今の御指摘のとおり、やはり地元の方、町民の方が誤解を受けているということをお伺いしましたので、国土交通省、県を通じて調整していただいて対処するように努めます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ぜひ、よろしくお願いします。

そして、自転車の走行空間として、町道200号線の北側の部分ですか、今、カラーコーンが置いてあります。大分、凹凸というのですか、でこぼこしてあるところなのですが、カラーコーンが置いてあるということなので、今後、対処されていただけるのかなと思います。

それと、以前、青少年育成会の方たちと座談会をしたときに、これは意見として出たのですが、200号線の南側寄りの、方向は南側ですか、の歩道ですね、ここ、車の通りも、この通り、ちょっと多くて、児童たちはその歩道を自転車で走るということで。しかし、この歩道、幅も狭くて、その間に標識とかミラーが立っていて、その脇にもちょっと高いブロックがあったりして、そのブロックとか、そういうところに子どもたちが当たったりして歩道から落ちてしまうと。また、この歩道も古いものであり、高さがちょっと高いような歩道ということで非常に危ないので、どう

にかしていただけないでしょうかなんていうことも言われたのですけれども。私も見てきたのですけれども、やはり、かなり危ないかなという感じがしましたので、ハード面に対する実情も分かりますけれども、せめて、こういう危険を伴うようなところは、今、言ったところ以外にもあると思いますので、ちょっと調査をしていただいて計画を立てて今後対応していただきたいと思いますけれども、町の考えをお伺いします。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（山口一夫）

それでは、お答えいたします。

まず、1点目、町道200号線の舗装が盛り上がっているところ、コーンがあるところにつきましては、今年度、補修をいたします。

2点目の、ほかの歩道の部分の不具合等につきましても、現場等を確認した上で順次、改善できるところから改善をしていくということで考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ぜひ、よろしく願います。できれば早めの対応で、よろしく願います。

続きまして、現在、広域連携事業に取り組んでいるということですが、その中でコミュニティーサイクルの実証実験、これを開始したということですが、この取り組みの成果はどんな感じだったのですかね。県の取り組みにはなりますけれども、わかる範囲でお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきます。

昨年度、コミュニティーサイクルということで、先ほど町長答弁で申しあげましたとおり、4駅71台の設置をさせていただきました。開成駅から出発したというようなことの実績にはなりますが、開成駅は3月18日から運用を開始してございまして、3月18日から8月末までのデータになりますけれども、全体4駅で202台の利用がございまして、開成駅からの出発は41台ということで、全体の20%程度ということの実績となっております。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

現在、このレンタサイクル事業は、全国的にもかなり多くの自治体に取り組んでおります。県など広域自治体も含めてですけれども。その中で、最近、特に目立つのは、



瀬戸内のしまなみ街道ですか、ここのレンタサイクル、テレビなどで何度か目にしたのですけれども、こことは、この辺、県西地域、シチュエーションなどもちょっと違いがありますけれども、こちらは民間企業さんがやっている、民間さんに委託しているということで、PR戦略としてかなり動いているのかなと感じております。やはりPR活動が非常に大事なのかなと思っているのですけれども、開成町は今後、コミュニティーサイクル事業も含めまして、自転車を利用した取り組みを行っています。いろいろ広域という中で調整等もあると思いますけれども、町として今後、どのような戦略を持って事業を展開していこうと考えているのか、お伺いします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。

広域連携の事業でコミュニティーサイクル事業を行っている、取り組んでいるということでございますので、単独で戦略的にというようなお話で言えば、広域連携の仕組みの中で、県西地域と一体となってコミュニティーサイクルを含め自転車の利用促進というものに取り組んでいくということになるかと思っておりますけれども、御指摘のとおり、PR不足というところは認識をしております、ここは県の事業ということではありますけれども、開成駅にそういうものが設置されているという状況がございますので、様々なイベント、また民間企業の皆様が開成駅をご利用なさる際にご利用いただけるようなPRを町独自に展開をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

この辺、ちょっと広域的な取り組みということで、ぜひ、開成町にとっても良い成果が得られるように期待しております。

続きまして、自転車練習場等の確保についてお伺いします。

先ほどの答弁で、練習場について大きな問題は発生していないということでした。私も、そういう認識ではおりますけれども、そんな中でも、現在、準備は大人がいなければできないとか、できれば屋根があって常時、常時練習できる場所というのは強調されたのですけれども、そういう場所があればというような関係者さんからの意見を聞いたのですけれども、その辺の意見をいただいた、その辺について、町はどのように考えるのか、お伺いします。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

ただいまの佐々木議員の御質問にお答えさせていただきます。

自転車練習場の件につきまして、御回答させていただきます。

現在、先ほどの町長答弁の中でも申しあげさせていただきましたが、実際にコースとして線の引いてある開成小学校のピロティの下で練習ということで、こちら、Aコースといいまして、基本のコースの練習を開成小学校の下でやっております。ですので、そのAコースにつきましては既にコースが引かれておりますので、その部分を活用して使わせていただくと。

Bコースのコースにつきましては、隣接している開成小学校の校庭を使つての練習という形になりますので、近い範囲での中での隣接した中での練習ができるということで、そういった意味でも、今の開成小学校の使い勝手、スペース的な問題、例えば、Bコースのところは完全に屋根があれば、A Bともにコースとして置けるのですけれども、ただ、そこまでのところは今はございませんので、今のところは、その中で実施をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

分かりました。先ほど答弁にありました自転車の練習の場ですか、これは普通に自転車に乗る練習の場だというふうに今後、検討されると思うのですけれども、私、この中に、練習ができる、こういう大会に出場するときのスペースを確保していただくということが考えられないかなと思ひまして。私も自転車練習場等と言わせていただいたのですけれども、特に練習場に特化した場ではなくて、それ以外にも練習で使わないときは多目的に使えるような場、そういう場所がいいのかなと思ひておりまして、「等」というものを入れさせていただいたのですけれども、その中で、できれば大会コースが確保できる場所、これ理想だとは思ひますけれども、それが難しいようであれば、せめて自転車の練習場の、今後、町が検討していくという場所の中に、大会で使うピンですかね、ピンとかマット、また波状路というのですか、ああいうものなどを設置するスペースを確保していただきたいと思ひます。

また、場所についてですが、私もちょっといろいろ見たのですけれども、その中で一つ、私の意見として松ノ木河原の公園。以前、バスケットゴールがあつて、今、バスケットゴールが使われないような状態になっているところがあると思ひますけれども、その辺を考えてみたらなんてと思ひますけれども、その辺についての町の考えをお伺ひします。

○議長（茅沼隆文）

危機管理担当課長。

○危機管理担当課長（渡邊雅彦）

ただいまの佐々木議員の御質問にお答えさせていただきます。

まず、自転車の先ほどの町長の答弁の中で、子どもたちが自由に自転車の練習場所の確保について、特定の公園を開放することということでお話しさせていただきましたけれども、議員御指摘のように、練習場という狭まった範囲と申しますか、それに

特化したものではなくて、例えば、小さいお子さんが、補助輪をつけた方々が保護者の方と一緒に実際に補助輪を外せるような、そういう練習場所ですとか、本当に自転車に初めて乗った、そういう小さい方たちが練習するような、そういう場所として。今現在、公園の中は自転車の乗り入れという形ができておりませんので、そのあたりも含めての練習場所という形のことをございます。

ピン、マット、それから、それぞれの道具ですとか、そういったものが常設できるかという、そのようなところをございますけれども、公園の管理者等との調整もございますけれども、その辺の部分につきまして調整させていただきまして、研究・検討させていただければと思います。

さらに、松ノ木河原というお話をいただきました。実際に公園として利用できるかどうか、近隣の方々の御意見、周囲の方のお話等もございますので、実際に場所として設置するにあたりましては、近隣の皆様の御意見も十分伺いながら、うまく調整させていただきまして、そういった場が設けていければありがたいかなと考えております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ぜひ、このあたり、前向きに検討していただきたいと思います。子どもたち、3年連続で全国大会に出場しております。また、年々、順位も上がってきておまして、私、先ほど聞いたのですけれども、今年も、もう既に県大会出場が決まったというようなお話も聞いております。子どもたち、ちょっとお話を聞いて、本気で日本一になろうと頑張っております。また、関係している大人の方たちも、かなりの時間を割いて子どもたちをサポートされております。職員の方たちもこの中に入っているのですけれども、職員の方たち、関係者の方たちとそれなりの関係を築けていると思いますので、私、今日は練習場について質問させていただきましたけれども、それ以外のところでも関係者の方たちと調整していただいて、町も、できる限りのサポートをしていただきたいと思います。

次の質問に移らせていただきます。サイクリングコースの関係で質問させていただきます。

私は、この件、何度か質問させていただいておりますけれども、前々から2市との協議、調整というお話がございますけれども、この辺、2市との協議、調整、現在、どの程度まで進められているのか、進展があったのか、お伺いします。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（山口一夫）

それでは、お答えいたします。

現在の2市及び県との調整状況でございますが、従前の答弁で答えたのと重複する

こともございますけれども、今現在、小田原市では、サイクリングコースに引き続いて海岸側に市の事業でサイクリングコースを延伸する工事を進めていると。小田原市の従来からの考えは、市で整備するサイクリングコースが完成した後に移管を受けますというのが、まず1点。あと、南足柄市につきましては、これは御承知のことと思っておりますけれども、今の市の経済状況、財政状況等を鑑みて、ここ3年ぐらいは移管という議論はできないというような状況でございます。

そういった中で、先般、県から、そういった事情、各市・町の状況を改めて顔を突き合わせて確認しましょうということで打ち合わせをした中で、そうはいつでも、そうするとなかなか移管にならないので、例えばですけれども、小田原市も、従来の工事が完成するまでというのを見直して、工事の途中でも移管を受けるようなことが考えられないかとか、あと南足柄市の問題はありますけれども、その中で、これはサイクリングコースの連続性という課題はございますけれども、まずは先行して小田原市と開成で引き受けることができないかとかといった、そういった選択肢についても、ざっくばらんに今後検討していこうということになってございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

分かりました。先ほどの町長答弁の中で、移管後、リニューアルしたサイクリングコースとなるよう、舗装やサイン看板の補修、更新などについて県と調整、要望していくとのことですけれども、もう少し具体的に開成町として県へどのような要望をされていくのか、もし、ございましたら伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（山口一夫）

それでは、お答えいたします。

これにつきましては、県に、市・町のそういった要望に対して、どこまで応えられるかということで確認をしております。現に、県内のサイクリングコースのうち金目川のサイクリングコースと多摩川のサイクリングコースにつきましては、それぞれ平塚市、大磯町及び川崎市に移管されてございます。鶴見川のサイクリングコースにつきましては、横浜市等の関係市が移管を受けないということでございまして、平成27年4月に河川管理者である県に移管をされたということになってございます。その中で、実績といたしまして、今ある舗装等の補修は当然やりますよという話でございまして、あとは、サイン看板の更新とリニューアル的なものについては、原則はなかなか厳しいとは聞いてございますけれども、一括で移管された中での希望といたしましては、これからも引き続き、どこまでやっていただけるかを含めて調整をしていきたいと考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ありがとうございます。まだ移管は受けていませんし、まだ受けると決まったわけではございませんけれども、私、例えば、移管を受けた後は、これ、町の管理責任として一番気になるのは安全面なのですから、その辺の確保はしっかりやっつけていかなければいけないのかなと考えております。それで、町の考えとして、町の方向性として安全性、この辺を考えた中で2市と協議、また県への要望、この辺を私としてはぜひ強く要望していただきたいと思うのですけれども、その辺というのは、また県の担当課も違うとか、そういうお話になるのかもしれませんが、ちょっと、その辺について町の考えをお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（山口一夫）

それでは、お答えいたします。

今のサイクリングコースは、御承知のとおり、河川管理者である県の堤防を利用している。堤防の上を利用しているということでございまして、サイクリングコースの形態も、その中の平ら地の部分の2メートル程度を舗装しているという状況で、ある意味、自由使用の中で利用していただいている。その中で、実態は、サイクリングコースといいながら歩行者も、だから散歩されている方等も利用しているということ。

今、私たちが思っておりますのは、なかなかサイクリングの利用者は歩行者に対しての考え方、邪魔だとか、そういった話がございます。そういった誤解もございまずので、それが逆に言うと安全性が担保できない一因かなと思っております。それで、実際は、もう自転車利用者と歩行者が混在して利用していただくということの安全性の担保が必要かなということで、これはルール、マナー、モラルの問題ですけれども、そういったことの啓発がまずは大事かなと。

ハード的なものは、今の中で舗装面の脇に1メートル程度、舗装していない面がございます。それは、ある意味、そこは夏場等は草等が生えたりしますけれども、それがあある程度、緩衝帯になっているのかなと。ということで、今の公道を踏襲しながら管理を進めていきたいと。あとは、今後、利用者の意見等も聞きながら、適切な管理に努めていきたいと考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

はい、分かりました。サイクリングコース、実際、開成町のサイクリングコースでも死亡事故が起きておりまして、ほかのサイクリングコースでも多くの事故の事例が

あります。この辺の対応をしっかりと行っていただきたいと思います。

そして、2市8町での広域連携の取り組みは、県西地域また開成町にも良い結果が出ることを、今後、まだ始まったばかりなので期待しております。

また、それと、私、やはり町域での自転車利用促進事業も、今後、ぜひ積極的に進めていただきたいと思います。

時間はまだ早いようですけれども、これで私の質問を終わらせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

これで佐々木昇議員の一般質問を終了いたします。